



住友病院図書室における利用者教育 —新卒研修医のオリエンテーションを中心に—

松本 純子

I. はじめに

2004年4月から医師の卒後臨床研修が必修化されました。住友病院では新研修制度の開始に先立ち、一昨年から卒後1年目の研修医の受け入れを始めました。

従来から新人看護師には、図書室の利用の仕方について見学を兼ねたオリエンテーションを行っています。研修医を対象としたオリエンテーションは実施したことがありませんでした。そこで研修医制度が変わるこの機会を捉え、「オリエンテーションプログラムに図書室の文献検索ガイダンスを加えていただけないか」と臨床研修指導部長に申し出たところ、「文献検索は図書室が専門家だから」とスケジュールに加えてもらうことができました。

一昨年と昨年の2回、研修医に行ったガイダンスの内容とその成果について、その後実施した研修医へのアンケート調査の結果をも併せて報告します。

II. ガイダンスについて

はじめに、研修医向けオリエンテーションを実施しようと思った理由について述べたいと思います。

一つ目は臨床研修指定病院として、病院図書室の教育面での役割を病院や職員にアピールすること。

二つ目の理由は、日頃から文献検索について感じていたことがあったからです。それは、捨

てられた検索結果のプリントや複写申込の文献リストを見て、もっと効果的に文献が探せるのではないか、あるいはもっと用紙の無駄をなくせるのではないか、という思いでした。かつて“Index Medicus”や“医学中央雑誌”などの索引誌や抄録誌を使い、時間をかけて見出し語から文献を探していた頃と異なり、今やコンピュータを利用して、キーワードを入力すれば短時間で文献が探せる便利な時代になりました。その反面、データベースの特徴、あるいはキーワードの選択、検索式の立て方、文献の絞り込みといったデータベースのさまざまな機能について十分に知る機会がないように感じます。

エンドユーザー検索が普及した今日、図書館員が利用者の文献検索に立ち会う場が極めて少なくなりました。これまで代行検索を行ってきた経験を生かし、ちょっとしたヒントを提供するだけで効果的な検索できることを知ってもらいたい、それがガイダンスを実施したいと思った一番の動機でした。

III. ガイダンスの概要とその成果

研修指導部長からオリエンテーションのスケジュール表が届きました。オリエンテーションは、5月1週目から約4週間にわたって行われ、一昨年度、昨年度共に図書室に割り当てられた時間は、半日(2時間半~3時間)が2回でした。一昨年は5名、昨年は8名の新卒研修医に行い、その内容は、それぞれ若干異なりますが、次に述べるとおりです。

1回目：図書室利用の仕方(閲覧・貸出・資

料の複写・図書室が所蔵しない文献の申込、など)、PubMed の使い方。2 回目：医中誌 Web・JDream・UpToDate の使い方。実習には図書室のパソコンを 2 人で 1 台使ってもらいました。

以下にオリエンテーションの具体的な内容を紹介します。

図書室の利用の仕方については、15分程度の説明で終わり、あとの時間をすべてデータベースのガイダンスに使いました。データベース、特に PubMed と医中誌 Web については、すでに使いこなしている人から、ほとんどはじめて利用する人まで格差があり、同じ説明でよいのか気になりましたが、始めてみると「知っている人は知っているなりに」「知らない人は知らないなりに」と、心配していたギャップはさほど問題にはなりませんでした。

ガイダンスは、先にマニュアルと例題を配布し、それぞれのデータベースの概略を説明。さらにその機能や検索方法を説明した後に例題検索を行いました。

データベースの中で一番時間をかけたのが PubMed です。最初に PubMed の構造を知ってもらうため、Cumulated Index Medicus を資料に、PubMed の基本構造となる MeSH Term と Subheadings の説明からはじめました。

PubMed のマニュアルは、主に「図解 PubMed の使い方」(日本図書館協会発行)と慈恵医科大学医学情報センターのホームページに掲載されている「PubMed 利用ガイド」を参考に作成しました。データベースの理解を深めるためには、既成のマニュアルをそのまま借用するより、図書館員が内容を解しながら作成した方がよいと考えています。

昨年は、一昨年に作成したマニュアルの説明不足や理解しにくい部分、さらに機能アップした箇所などを改めました。データベースはバージョンだけでなく、機能アップが随時あるため、毎年資料を見直す必要があると思います。

ガイダンスの印象は、一昨年は初めての試み

のためか、内容を欲張り過ぎ、その上一方的な説明になりがちであったことを反省しました。昨年はその点を改善したものの、人数が増えたせいで、それぞれのペアの進行状況がちぐはぐになり、全体的な時間配分の難しさを感じました。これも経験を重ねるごとに、円滑に図れるようになるものと思います。ただ、受ける側にも文献検索に対する関心の強さや、利用経験などにより個人差があるため、全員が満足するガイダンスを行うのは難しいものと思われます。

文献検索ガイダンスを行う際の留意すべき点を挙げると、

1. 計画性をもつこと。特に全体的な時間配分、どのような方法、手順で行うかを考える。
2. それぞれのデータベース機能のポイントを押さえておくこと。
3. よい例題、問題を用意すること。
4. 図書館員の検索技術と指導方法のスキルアップを常に図ること。

IV. アンケート調査の実施

昨年の10月、オリエンテーションを行った研修医(12名)にアンケート調査への協力をお願いしました。目的は、ガイダンスに意義があったかどうかを知ること、図書室の利用者サービス全般を見直すこと、そのためニード調査を兼ねた内容としました。

調査項目は、

1. 図書室の資料および整備情報源とその利用について
2. 図書室のサービスについて
3. 図書室の利用頻度と利用時間について
4. 図書室利用のオリエンテーションについて
5. 図書室に対する意見・要望など

その結果の一部を紹介します。

●文献・情報検索によく利用する文献データベースは何ですか

複数回答で、一番多かったのが PubMed の 11名、次いで医中誌 Web 9名、JDream 4名、UpToDate 8名。よく使うデータベースの1位

は医中誌 Web、2位はPubMedでした。

●図書室の利用頻度と利用時間について

「週に1～2回」「3～4回」「毎日」それぞれ4名ずつ。図書室はテンキー操作で時間外も利用できるようになっているので、土日・祭日でも利用できます。土日・祭日の利用については「利用している」4名、「時々利用する」6名、「あまり利用しない」2名となっています。利用頻度は他の利用者とは高いと思われます。

●利用する時間帯について

複数回答で、17時以降と答えた人が最も多く、次いで12時～17時、8時45分～12時、8時45分以前の順でした。以上の結果、図書室はよく利用されているものの、時間外の利用が多いということがわかりました。

●図書室のオリエンテーションについて

結果は、「よくわかった」4名、「まあまあわかった」8名で、「あまりわからなかった」や「全くわからなかった」と回答した人はなく、またガイダンスは必要かどうかの問いには、「必要」が11名、「必要でない」が1名という結果で、一定の成果はあったものと思われます。

大学在学中、オリエンテーションを受けたことのある人は4名でした。

オリエンテーションに関する意見の中に、図書館員にとって励みになる次のようなコメントがありました。

「実践的な内容で役立っている」「PubMedの専門的な使い方はオリエンテーションがないとわからないので大切である」「われわれは医師ですが、検索については素人なので、図書館には文献検索・資料・データベースの使いこなしのプロという役割を期待しています」

●その他

電子媒体と紙媒体に関する意見を聞いたところ、大半の人が紙媒体の必要性を述べており、電子ジャーナルが使えればプリント版は不要かとの質問には、11名が「いいえ」と答えています。また、具体的な図書室への要望では、①

CD-ROM、DVDなどの電子教材の整備（エコーやCTなどの画像が勉強できるもの）②研修医向け図書整備 ③新しい電子リソース（Cochrane Library・MD Consultなど）の導入がありました。

つまり、図書室へのニーズをまとめると、①研修医向け図書整備、即ち蔵書構築の必要性 ②紙媒体と電子媒体のバランスの重要性 ③電子リソースやAudio Visualの整備を挙げることができます。

図書費予算、院内のコンピュータネットワーク環境など、図書室では解決できない課題については、今後病院の理解を得る努力もしていかなければならないと思っています。

V. おわりに

図書館員側からみたオリエンテーション効果について

1. オリエンテーションをしていない医師に比べコミュニケーションがスムーズにとれ、声がかかりやすくなった。
2. 他の医師に比べると図書室がよく利用されているだけでなく、利用の仕方が上手である。
3. 図書館員にとって文献検索のスキルアップになった。
4. 臨床研修指定病院としての図書室の役割を再認識する機会になった。

研修医の図書室利用状況、例えば資料の閲覧・貸出、文献検索、文献複写などを通して、図書室の教育支援はすなわち臨床活動支援につながることを実感しました。

図書室に出向かなくても、インターネットにつながれば、どこからでもある程度必要な情報が入手できる時代になってきました。しかし、だからこそ情報（文献）検索のプロとして、図書館員には利用者教育を行うという役割があるのではないかと思います。それには、常に自らレベルアップを図っていくことが、必要不可欠であることは言うまでもありませんが。